

令和五年度 奈良県教育長賞

税金の使われ方

奈良大学附属高等学校 二年 逸崎 涼

正しい税金の使い方とは何だろうか。私がいつものようにSNSを見ていると目に止まったのは「愛子さまティアラ三度目の辞退」という記事だった。

私がつ女性皇族のイメージは白いドレスにキラキラと輝くティアラをつけた姿だ。一人ひとり違ったデザインのティアラをつけている様子は小さい頃から年に数回だけテレビで放送される憧れの世界だった。そのティアラが毎年新調されるということを知ったとき自分には程遠い世界の話だった。しかし、だからこそより憧れるのかもしれない。もし自分がそのような家系に生まれていればきっと毎年楽しみで仕方がないだろう。

そんな多くの人が憧れる天皇家の長女である愛子さまはなぜ三度もティアラの新調を辞退されたのか気になった。記事にはコロナ禍での国民の気持ちを考えてのことだと書かれていた。確かにこの三年間で多くの人が職を失ったり生活が苦しくなったりした。そのような国民のことを考えてのご決断ということに称賛の声も非常に多く見られた。しかしそれと同時に「国民の気持ちに寄り添ってくれるのは嬉しいけれど、その気持ちだけで十分だから女の子で皇族だから味わえる素敵なものを自分のために身につけて、元気な姿を見せてほしい。そのために税金が使われるのならよこんで払う。」といった意見も多く見られた。コメント欄にそのような意見がたくさんあるのは、愛子さまをはじめとした皇族の方々が普段から国民のことを考えてくださっている様子が私たちに伝わっているからだろう。そして私もその意見には深く共感した。

私自身はまだ社会に出て働いていないのでほとんどの税金を自分で払ったことがない。それでもきっと自分が働くようになって税金として納めたお金がティアラに使われることになってても全く不快にならないし、むしろ作ってほしいと考えるようになるだろう。議会で居眠りをしているだけで月に何百万とお給料をもらっている人たちに渡るお金になるくらいならティアラでもドレスでも作ってそれらを身につけた姿を見せてもらうほうがよっぽど良い。

私はその記事やコメント欄を読んで、良い税金の使われ方とは普段周りのことを考えて働いてくれている人たちのために使われることなのだろうと考えた。自分たちのために働いてくれている人に使われるのなら直接的には自分に関係がなかったとしても反対する人は減少するだろう。そうすれば、より多くの人々が快適に過ごせる社会を早く実現していくことができるのではないだろうか。